令和5年度
杉並区次世代育成基金活用事業

広島平和学習
中学生派遣事業

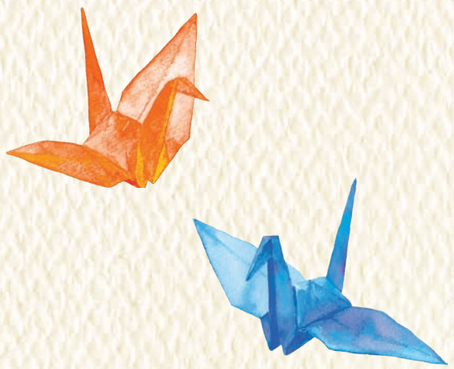
報告書

Hiroshima
－そこに立ち、何を考える－

Hiroshima
－ここから行動をはじめる－

目　次

はじめに…… 1
事業概要…… 2
派遣行程表…… 3
事前学習会…… 4
広島派遣…… 6
事後学習会・成果報告会…… 9
発表スライド……10
■Ａ班　派遣報告 ……11
■Ｂ班　派遣報告 ……18
■Ｃ班　派遣報告 ……25
■Ｄ班　派遣報告 ……32
■Ｅ班　派遣報告 ……39
元安川を流れた派遣生のとうろう……45
私の平和宣言……46
杉並区平和都市宣言……47



はじめに

杉並区長
岸本聡子

今、世界の状況は、大きく揺れ動いています。

10月に起きたパレスチナのイスラム組織ハマスの襲撃とそれに対するイスラエル軍の応戦では、子どもを含む多数の市民が巻き込まれ、尊い命が失われています。昨年から続くロシアによるウクライナへの軍事侵攻では、両国の交戦が続き、停戦の糸口を見いだせない状況です。ロシアやイスラエルからは、核兵器の使用をほのめかす発言が出るなど、人類は未だ核兵器の脅威にさらされており、その廃絶への道のりは、ますます厳しいものと言わざるを得ません。

今夏、杉並区の中学生が訪れた広島は、人類史上初めて核兵器が使用された場所です。彼の地で、中学生たちは、被爆者の方から直にその体験を聴き、原爆ドームや平和記念資料館で被爆の実態をその目で見てきました。そして、同世代の仲間たちと議論を重ねながら、現地でしか体験できないことを吸収して、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて学んできました。

この報告書には、平和のために自分たちに何ができるのか、中学生らしいまっすぐな考え、気持ちが自分の言葉で綴られています。

次代を担う若者が声を上げ、語り継いでいくことが、紛争が絶えない混沌とした世界を変えていく希望になるものと信じています。多くの皆様に本報告書をお読みいただき、改めて平和について考え、小さなことでもアクションを起こしていただけることを期待しています。

結びに、本事業の実施に当たり、ご協力をいただいた方々、杉並区次世代育成基金を通じて本事業を支えていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

令和５(2023)年12月

事業概要

目的

次世代を担う中学生が広島を訪れ、被爆の実態にふれるとともに、現地の中・高校生等との交流を通し「平和」の大切さを学び伝える。

スケジュール

区　分	日　時	内　容
第1回 事前学習会	7月　3日(月) 午後5時～午後7時30分	・自己紹介、アイスブレイク ・社会科講義（講師：伊藤 賀一氏） ・グループ学習
第2回 事前学習会	7月26日(水) 午前9時～午後3時	・被爆の概要説明（講師：楢原 泰一氏） ・被爆者との交流（杉並光友会他） ・未来型平和学習（講師：KNOW NUKES TOKYO 代表　中村 涼香氏） ・グループ学習
広島派遣	8月　5日(土)～7日(月)2泊3日	
事後学習会	8月22日(火) 午前9時～午後3時	・グループ学習 ・成果報告会リハーサル
成果報告会	9月　3日(日) 午後2時～午後4時30分	・グループ発表 ・教育長、杉並光友会、派遣生によるトークセッション ・私の平和宣言

派遣生 （区内在住の中学2・3年生29名）

氏　名	学年※1	学校名	氏　名	学年※1	学校名	氏　名	学年※1	学校名
小山 延蔵	2	杉森中学校	竹内 雛梨	3	井草中学校	荒井 理央	3	向陽中学校
笹岡 夏希	2	杉森中学校	波戸場 真	3	荻窪中学校	渡辺 新太	3	松ノ木中学校
岡 侑実	2	松溪中学校	宮﨑 凜	2	神明中学校	小柳 和音	2	和田中学校
小澤 七海	2	天沼中学校	笠原 凜南	3	宮前中学校	権藤 みさと	2	西宮中学校
松尾 風花	2	東原中学校	藤田 智貴	2	富士見丘中学校	髙橋 悠平	3	西宮中学校
上平 侑芽	2	中瀬中学校	國安 千晃	2	高井戸中学校	河合 啓志	8※2	高円寺学園
上野 里緒	2	井荻中学校	西山 康太	2	高井戸中学校	荒井 ひとみ	2	筑波大学附属中学校
田中 秀虎	2	井荻中学校	谷尾 心瑚	3	高井戸中学校	春原 雪乃	3	麹町学園女子中学校
若林 杏	2	井荻中学校	月原 凜久	3	高井戸中学校	篠原 はじめ	9※3	Musashi International School Tokyo
井澤 日和子	3	井草中学校	佐多 遼介	2	向陽中学校			

※1　派遣当時の学年を表記
※2　小中一貫教育校の学年
※3　日本の学校の中学2年生に相当

引率及び指導者 （8名）

氏　名	所　属	氏　名	所　属	氏　名	所　属
長谷川 学	井荻中学校　校長	鈴木 壮平	済美教育センター 教育相談担当課長	田口 昌実	区民生活部管理課 平和事業担当係長
野坂 彩佳	阿佐ヶ谷中学校 主任教諭	三浦 哲	済美教育センター 指導主事	小川 綾子	区民生活部管理課 平和事業担当
武田 エリサ	東田中学校　主任教諭	阿出川 潔	区民生活部管理課長		

派遣行程表

派遣行程表 令和5年8月5日(土)～7日(月)2泊3日

日　程	時　間	行　程	内容等
8/5 土	7：00	杉並区役所集合・出発式	
	8：30	東京駅発(新幹線のぞみ17号)	・車内でとうろうの色紙を作成
	―	昼食（車内）	
	12：27	広島駅着	
	13：30～16：45	「ヒロシマ青少年平和の集い」参加 (広島市役所)	・原爆被害の概要 ・被爆体験証言 ・グループディスカッション
	17：00	夕食(むさし土橋店)	・夕食後、グループ学習
	19：00	ホテル着・1日の記録を記入	
	22：00	就寝	
8/6 日	6：30	朝食	
	8：00～ 8：50	「平和記念式典」参列	
	9：30～10：30	「本川小学校平和資料館」見学	
	11：40	昼食(呉ハイカラ食堂)	
	12：45～14：30	「呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)」見学	・施設職員による大和講座付
	14：30～16：00	呉市歴史建造物等巡り	・ボランティアガイドによる解説付
	17：00	ホテル着・1日の記録を記入	
	18：00	夕食(ホテル)	・夕食後、グループ学習
	19：20～20：20	とうろう流し見学	
	22：00	就寝	
8/7 月	7：00	朝食	
	8：30～ 9：50	「広島平和記念資料館」見学	・イヤホンガイド解説付
	10：00～11：15	「平和記念公園」碑巡り	・ボランティアガイドによる解説付
	12：43	広島駅発(新幹線のぞみ26号)	
	―	昼食(車中)	
	16：33	東京駅着	
	17：50	杉並区役所着・解散式	

事前学習会 1

■日時：7月3日(月)　午後5時～午後7時30分
■場所：杉並区役所　第5・6会議室

学習会冒頭、区長からの応援メッセージに区の代表として、決意を新たにした派遣生。

その後、自己紹介や班ごとのアイスブレイクで緊張をほぐし、「なぜ、あの戦争は起こったのか」について社会科講義を受けました。

後半は、29人が5班に分かれてのグループ学習。「あなたが思う平和とは」「その平和のために私たちができることは」について、ディスカッションを行いました。

区長から派遣生への応援メッセージ

一人ずつ参加への意気込み、自己PRを発表

アイスブレイクに「すごろくトーキング」で共通点探し

社会科講義「なぜ、あの戦争は起こったのか」

グループ学習。自分の考えを貼っていきます

私たちが思う「平和」とは

班員同士で議論し、グルーピングして整理

派遣生voice　権藤（B班）

今日の授業を聞いて、戦争がなぜ起こったかなど、事実だけではなく、その裏のことを学ぶことも大切だなと思いました。

派遣生voice　岡（E班）

「平和」という言葉の意味はみんな知っているのに、それについて深く考えると人それぞれ考えが違うのに驚きました。その平和のためにどう行動していけば良いのかを考えていきたいです。

事前学習会 2

■日時：7月26日(水)　午前9時～午後3時
■場所：杉並区役所　第5・6会議室

被爆者との交流

杉並光友会（原爆被爆者の会）の協力のもと、５名の被爆者の方においでいただき、車座になって対話。ご自身の体験談、平和への思いや中学生に願うことなどを伺いました。

未来型平和学習

KNOW NUKES TOKYO代表の中村涼香さんからは、2022年ウィーンで開かれた核兵器禁止条約第１回締約国会議での活動の様子をはじめ、「平和のために私ができるコト」をテーマに講義を受けました。

グループ学習

１回目の事前学習会で出た意見を基に、班ごとに学習テーマを考えました。９月３日の成果報告会に向け、その内容・目的・役割分担等をみんなで話し合いました。

派遣生voice　波戸場（A班）

初めに"当時"の様子を伝える被爆者の方の体験を、次に"未来"に向けて、被爆三世の中村さんのお話を拝聴して、まったく違う視点からの"原爆"について触れることができました。

派遣生voice　笠原（C班）

今回、様々な方の話を聞き、今後は私たちが広島に行って学んだ「平和」のことを伝えていき、当時の人々たちの想いを受け継ぐことが大事だと思いました。

広島派遣

1st day　8月5日(土)　東京→広島

START 07:00〜
杉並区役所発

08:30
東京駅発

12:27
広島駅着

■区役所で出発式〜広島到着

出発式での団長あいさつ

新幹線車内でとうろうの色紙を作成

広島駅到着

13:00
広島市役所着

13:30〜16:45
ヒロシマ青少年平和の集い

■ヒロシマ青少年平和の集い参加

広島市の中・高校生ピースクラブが主催する事業に参加。
原爆被害の概要、被爆体験証言を聞き、200名弱の同世代の参加者と平和とは何か、核兵器の存在について議論し合いました。

全国から14自治体が参加。同世代が集まりました

ピースクラブによる原爆被害の概要説明

被爆体験証言終了後、講師に駆け寄り質問する杉並の派遣生たち

ディスカッションテーマは「あなたにとっての平和とは」「なぜ核兵器はあるのか」

17:00〜18:50
むさし土橋店

■夕食、グループ学習

夕食に広島名物お好み焼きを食べてパワーチャージ!

19:00
ホテル到着

■ホテル到着
（ホテルマイステイズ広島 平和公園前）

2nd day　8月6日(日)　広島滞在

START 07:10〜
ホテル発

08:00〜08:50
平和記念式典

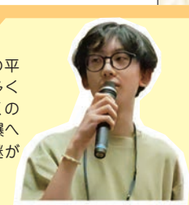
移動

■平和記念式典参列

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、縮小実施されてきた式典は、今年度、通常規模での開催となり、派遣生全員で参列することができました。厳粛な雰囲気の中、広島市長の平和宣言やこども代表による平和への誓いに対し、真剣に耳を傾けていました。

派遣生voice 篠原（C班）

原爆死没者の霊を慰め、世界の平和の実現を祈念する式典には、多くの方々が参列していました。多くの外国人も参列、発表していて、原爆への気持ちは、国境関係なく受け継がれているのだと感じました。



09:30〜10:30
本川小学校平和資料館

■本川小学校平和資料館見学

爆心地から最も近い小学校（当時 本川国民学校）であり、校舎の一部と地下室が資料館として整備・保存されています。
派遣生は被爆による焼け跡が今なお残る資料館の中で、奇跡的に生存した児童（約400名のうち1名のみ生存）の証言資料など熱心に見学しました。

原爆の炸裂地点と広範な被害を表す模型

漫画「はだしのゲン」のモデルにもなった小学校

呉市へ移動
（約50分）

12:45〜14:30
呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）

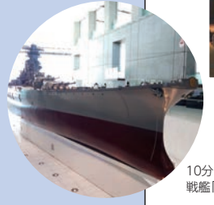
■呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）見学

海軍工廠（こうしょう）（海軍が管理する工場・研究所）として発展した呉の歴史とともに、呉で建造された戦艦「大和」の沈没や空襲を受けた戦時下の市民生活など、実物資料を通じて、戦争がもたらす悲劇を学びました。

派遣生voice 井澤（B班）

戦艦に装備された測距儀の技術がカメラに利用されたり、探照灯がマグネシウムの精錬に活用されるなど、私たちの生活の中に身近にある技術がもともとは戦争のために開発されたものと知り驚きました。

グループで見学


10分の1 戦艦「大和」

施設職員による大和講座

呉湾をバックに

14:30〜16:00
呉市歴史建造物等巡り

■呉市歴史建造物等巡り

かつて軍港として栄えた街に残る戦争遺構などを呉観光ボランティアガイドの方に説明を受けながら、巡りました。

映画「この世界の片隅に」の舞台にもなっている呉市

広島市へ戻る
（約50分）

17:00
ホテル到着

■夕食、グループ学習（ホテル内）

1日目、2日目ともに夕食後の時間も使ってグループ学習を行い、理解を深めました。

19:20
元安川へ移動

■とうろう流し見学

広島のとうろう流しは、家族を原爆で失った遺族の方々が供養のために、手作りのとうろうを川に流したのが始まりとされています。派遣生が平和への思いを記したとうろうも元安川に流されました。
（派遣生の「とうろう」は、P45に掲載）

3rd day　8月7日(月)
広島→東京

START 08:15〜
ホテル発

08:30〜09:50
平和記念資料館

■平和記念資料館見学

被爆者の遺品や被災写真などを展示した資料館です。数多くの資料から、原爆の非人道性、原爆被害の甚大さや悲惨さ、被爆者遺族の苦しみや悲しみなど、被爆の実相を学びました。

派遣生voice　小柳(D班)

平和記念資料館は、原爆が落ちたことを伝え続けなくてはいけないという、被爆者や遺族の想い、平和を目指す多くの人々の想いが詰まっていると強く感じました。

移動

10:00〜11:15
平和記念公園

■平和記念公園碑巡り

広島市の中心部にある公園。原爆ドームや平和記念資料館のほか、平和を祈念した数々のモニュメントがあります。派遣生は、かつて広島の中心的な繁華街であったこの地が原爆によって破壊され、公園として生まれ変わったことを実感しながら、碑に込められた平和への思いを巡りました。

広島市観光ボランティアガイドによる説明

広島産レモンサイダーを飲みながら一休み

11:50
広島駅着

12:43
広島駅発

16:33
東京駅着

17:50
杉並区役所着

■帰途

広島を訪れ、原爆や戦争の恐ろしさを改めて知り、平和を願う「ヒロシマの心」を感じた派遣生。3日間の行程を無事に終え、一路東京へ。

解散式で挨拶する代表生徒

■区役所で解散式

事後学習会

■日時：8月22日(木)　午前9時〜午後3時
■場所：杉並区役所　第5・6会議室

広島派遣から約２週間後、事後学習会を開催。各自が作成した資料を班ごとにまとめ、成果報告会のリハーサルを行いました。

成果報告会

■日時：9月3日(日)　午後2時〜午後4時30分
■場所：座・高円寺２

派遣生は班ごとに、広島で体感したこと、ともに学んだことを自分たちの言葉で報告。その後のトークセッションでは、教育長と派遣生が互いに質問し合い、杉並光友会（原爆被爆者の会）からは派遣生へのエールが送られ、会場全体で平和を考える有意義な時間となりました。

最後に、平和のために自分たちができるアクション「私の平和宣言」を発表し、これからも行動し続けることを宣言しました。（派遣生の「私の平和宣言」は、P12以降の個人ページに掲載）

班ごとの成果報告

トークセッション

私の平和宣言

来場者voice

子どもたちの素直な受け止め方、伝えようとする意欲に改めて平和について考えさせられました。

中学生の視点でありながら大人顔負けの内容で、とても分かりやすく伝わりました。

伝える活動

派遣生は、所属の学校でも報告を行っています。

一人でも多くの人に自らの体験を伝える活動を実践しています。

発表スライド

派遣生が成果報告会で発表したスライドの一部です。
班ごとに学習テーマを決め、1人2枚ずつのスライドをPowerPointで作成し、発表を行いました。

100人に話して5人の心にしか残らなくても それを続けていくことが大切だ

学習テーマ

戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

今、私たちにできること。それは
「被爆者の方から伺った被爆体験を言葉で伝えていく」
「戦争と被爆の本当の怖さを知る」
「周りを幸せにできるように行動する」
「互いを尊重できるような環境をつくる」この４つです。
幸せと思い、互いに尊重できる日々を、そして
誰もが平和と思える世界を、創っていこうと思います。

A班

天沼中学校　2年

小澤 七海（おざわ ななみ）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

グループディスカッションの様子

「被爆の体験を伝えること」「互いを尊重できる環境を作ること」「平和について考えること」が今、私たちにできること。

そう考えるきっかけとなったのは、ヒロシマ青少年平和の集いに参加して感じた３つのことです。

１つ目は、被爆者のお話を聞き、「これをこの場だけの経験で終わらせてはいけない、伝えなくては」という気持ちが自分の底から浮かび上がってきたことです。胸が苦しくなるようなお話を聞き、このお話がとても貴重なものであると感じました。被爆者の平均年齢が上がっていく中、どうやって次の世代にも伝えるかが重要になっていくと思います。

２つ目は、グループディスカッションから「平和とは当たり前と、争いがない環境から生まれるもの」であり、そのためにはお互いを尊重するべきであると考えたことです。私の入ったグループではそれぞれが活発に話し合っていました。司会役をしていた人がそれぞれの意見を尊重している様子を見て、これこそが平和に大切なものだと感じました。

３つ目は、この集いのように平和について「考える」ことが一番の平和につながるのだということです。同じグループにいた子がディスカッション後に「私の中で結論は出なかったけど、平和について何か分かったような気がする。」と言っていました。私自身もそう感じていたので、もしかすると「平和について考える」という行為自体が平和につながっているのではないかと考えました。

この学習を通して私は、今、私たちにできることを地道に行っていき、平和を作り上げていきたいと強く思いました。

2 感じたこと、学んだこと　核の傘と核兵器根絶

核兵器とは核分裂や核融合反応で放出される膨大なエネルギーを利用した兵器のことで、原子爆弾、水素爆弾、中性子爆弾などの核爆弾とそれを運搬する運搬兵器で構成されています。

現在、核兵器は人間の生み出した世界最強の兵器だとされています。被爆者のお話を聞いていると「核兵器が憎い」という言葉が度々出てきました。私はこの言葉から核兵器根絶を目指していくべきだと考えましたが、現状、日本は核の傘によって守られている側面があります。そこから徐々に抜け出していき、核兵器のない平和な世界を被爆国である日本が作っていくべきだと思います。

私の平和宣言　**相手の価値観を尊重する**

「相手の価値観を尊重する」ことで争いがなくなり、平和になると思ったからです。１日目のヒロシマ青少年平和の集いで、平和とは争いがないことという意見が出て、それに納得しました。

おおよその争いごとは価値観の違いから生まれます。例えば、冷戦も資本主義と共産主義の価値観の違いを尊重し合えなかったことで起こりました。相手の価値観も尊重することで小さな冷戦を起こさないようにしたいです。

A班

井荻中学校　2年

田中 秀虎（たなか ひでとら）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

私たちは、ヒロシマに行ってきました。そこは82年前に始まった出来事と深く結びついていました。

今から82年前1941年12月８日、真珠湾攻撃によって、日米合わせて死者約320万人に上るアジア・太平洋戦争が始まりました。そしてその４年後、1945年８月６日にヒロシマ、８月９日ナガサキに原子爆弾が落とされ、1945年８月15日に日本は降伏、終戦となりました。

戦時中のヒロシマの呉市には大日本帝國海軍の重要な基地、施設が存在したため、米軍による空襲が行われ、その時市街地への攻撃もあり、呉市は焼け野原となりました。

そして、ヒロシマに原子爆弾がおとされました。

『被爆した少年が母親にむかって「僕はおかあちゃんと会えたから幸せだったよ」と言い、息を引き取った。人間死ぬ時皆、母親のことを思い出す。』これは、平和記念公園を見学した時にガイドさんが説明してくださったお話です。このお話をきいて、原子爆弾とは軍人であろうと、民間人であろうと人の命を、人生を、人の体をすべて、一瞬にして破壊しつくすものだと気づきました。そして戦争とは、恐ろしい爆弾を人が落とせるようになるということです。

在り日しの戦艦大和

2 感じたこと、学んだこと　忘れない

原爆ドームや平和記念公園、大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）に展示されている特攻兵器「回天」や「零式艦上戦闘機六二型（ゼロ戦）」、世界最大の主砲を持つ戦艦「大和」の10分の１スケールの模型、歴史的遺産などを見てきました。

私はそれを見て、戦争とは何か、平和とはどういうものか自分なりに感じてきました。

戦時中、多くの人が戦火を歩みました。死を覚悟して…

太平洋戦争末期、1944年から1945年にかけて、日本軍は少ない戦力で戦局を好転させるため、生きては帰れない「特攻」を開始しました。また、1945年４月６日戦艦大和と他９隻の無謀な沖縄に向けての出撃も行われました。大和は４月７日、米軍による攻撃をうけ大爆発をおこして沈没。９隻中５隻の軍艦も沈没。

アジア・太平洋戦争だけでも日米合わせて約320万人の方が亡くなられています。

今を生きる私たちは、戦争があったこと、食べ物がなかったこと、悲しみがあったこと、これを絶対に、絶対に忘れてはいけません。

国を守るため、家族を守るため、愛する人を守るため、戦地に赴かれた人がいます。

生きたいのに、死んでしまった人がいます。大切な人と別れなければいけなかった人がいます。

この人たちの努力があって、この人たちの思いのおかげで今、私たちは生きています。

私たちが今の日本を守った人たちにできることは、常に戦争を学び平和とは何か考え、そして、何よりも今ある平和を守り続けていくことではないでしょうか。

私の平和宣言　**常に戦争を学び平和について考える**

戦争を忘れず先人が守った平和を守るため

A班

井草中学校　3年

竹内 雛梨（たけうち すうり）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

このテーマから1番学んだことは、“当たり前の日常”がどれほど尊く、幸せなのかということです。被爆者の方のお話を聞いたとき、「あなたたちは幸せです。なぜなら勉強ができて、命があって、夢や希望があるから。」と言われました。そこで私は初めて当たり前の日常に幸せが詰まっているのだと分かりました。それと同時に、当たり前の大切さをすべての人が知る必要があると感じました。

2 感じたこと、学んだこと　平和とは

私はこの広島平和学習中学生派遣事業を通して平和とは何か、戦争の悲惨さ、そして伝え続けることの大切さなど多くのことを学びました。

中でも３日目の平和記念資料館はとても記憶に残っています。平和記念資料館には、当時の写真や資料などがあり、それは見るのが辛くなるほどのものでした。死を予告する斑点、川に浮かぶ死体、真っ黒に焼かれた身体・・・など様々なものが写真として保管されていました。戦争の現実を突きつけられた私は言葉では表せないほどの恐怖感と悲壮感に襲われました。どうしてこんなことが起きてしまったのだろう。一瞬にして消えた命の重さ、多くの人の想い。残された人の使命感。すべてが深く、重く、尊いものでした。

慰霊碑から見える原爆ドーム

また、被爆者の方がお話してくださったときに、とても辛そうでもはっきりと何度も繰り返して言っていたのは「戦争は繰り返してはいけない」です。被爆者の方の言葉が誰の声よりも刺さりました。だからこそ、私が発信したところで伝わるのか、何の力になるのか、考えました。被爆者の平均年齢が85歳を超える中で伝えていかなければならない現実、それを少しでも伝えるのが今を生きる私たちがすることです。100人に話して5人の心にしか残らなくても、それを続けていくことが大切だと思いました。私はこの学習を通して「戦争」「平和とは」「伝え続ける必要」など様々なことを学ぶことができました。

私の平和宣言　風化させず伝える

時間がたち、風化していってしまっている原爆の事実があります。私ももともと原爆などに詳しいわけではなく、8月６日に特別な気持ちになるわけではなかったです。今回学んで原爆の怖さや被害を知って、今まで何も知らなかったと感じました。なので、私が周りに伝えていくことで少しでも原爆のことを知り、原爆について考える人が増えてほしいと思いました。そうすれば、おのずと風化も防いでいけると思うからです。

私たちはこんな大きな被害のあった原爆を忘れてはいけないし、今後に生かしていかなければいけないと強く思いました。

A班

荻窪中学校　3年

波戸場 真（はとば まこと）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

体験を語る被爆者の方々、未来型平和学習で核問題について話す被爆三世の方、世界に向けて平和への誓いをする小学生、私は、平和学習で「平和」について考えるとともに、平和の「訴え方・伝え方」に多く触れることができた。ヒロシマ青少年平和の集いをはじめ、様々な人と平和について話し合う中で一人一人に自分なりの平和があることを知るとともに、その人なりの「訴え方」や「伝え方」があることに気が付くことができた。

私たちのグループテーマには、「～今、私たちにできること～」というサブテーマがある。被爆者の高齢化が進む今、私たちにできることは、まず「伝えていくこと」だ。

今回の学習で学んだ「それぞれの伝え方があること」を胸に、この先も自分にしかできない自分なりの方法で平和の大切さを伝えていきたい。

2 感じたこと、学んだこと　ヒロシマと戦争と原爆と自分と向き合った

私の家には実話を基にした原爆の絵本がある。「まっ黒なおべんとう」、その本を母は私たち兄弟が幼いころに読んでくれたことがあった。当時はあまり内容を理解していなかったが『怖い』という感情だけは大きく、私が派遣事業から帰ってきて読むまで何年もの間、その絵本を読むことができなかった。小学生の頃から歴史が好きだったが図書室の歴史漫画も戦争のところだけは手に取れなかった。戦争はいけないこと、原子爆弾は恐ろしいもの、頭では分かっていたが悲惨な現実があまりにも怖いために避けてしまっていた。

中身がまっ黒になったおべんとう

4月から私は3年生になり、受験に向けて、「弱い自分」と向き合うためにも「目を背けてきた現実」と向き合うためにも広島の派遣事業に参加したいと思った。

派遣事業では、平和記念資料館の展示や被爆体験講話をはじめとして、核兵器の恐ろしさや平和の大切さを改めて知ることができた。特に平和記念資料館の展示は当時の様子を物語っており、原爆の悲惨さを体で感じた。展示品の中には、「まっ黒なおべんとう」に出てくる「おべんとう」があった。そのおべんとうは静かに原爆の悲惨さを物語っていて、それを見たとき、私は今までの自分や悲惨な現実と向き合えた気がした。

私はヒロシマで多くのことを学び、感じることができた。実際に行ってみなくては感じられないものがあり、もう一度行きたいと思うと同時に、たくさんの人に行ってほしいと思った。

私の平和宣言　平和の灯を点火していく

平和記念公園碑巡りでガイドさんが「あなたたちの心に灯った『平和の灯』をほかの人にも繋げていってください。」とおっしゃいました。

派遣事業で平和の大切さ、戦争の恐ろしさを深く感じ、私たちの心には『平和の灯』が灯ったのだと思います。人々の想いを繋ぐためにも身近な人から平和の大切さを伝えていき、『平和の灯』を点火していきたいと思います。

A班

高井戸中学校　2年

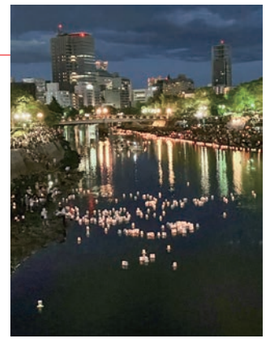
西山 康太（にしやま こうた）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

1945年8月6日8時15分、広島に一発の爆弾が落ちた。その爆弾が、広島の街を破壊したのだ。今回の学習テーマを学んでいって、原子爆弾が与えた影響を知ることができた。

原子爆弾は、人の命を奪っただけではなく、原子爆弾の後遺症などの症状により今も苦しんでいる被爆者の方もいる。たくさんの人の命を奪った原子爆弾の悲惨さと、平和の大切さを学ぶことができた。

2 感じたこと、学んだこと　使命


人々の想いをのせて流れる灯篭

8月6日、平和記念式典で広島県の湯崎英彦知事は、核抑止論者に対して問いかけた。「あなたは、万が一核抑止が破綻した場合、全人類の命、場合によっては地球上の全ての生命に対し、責任を負えるのですか。あなたは、世界で核戦争が起こったら、こんなことが起こるとは思わなかった、と肩をすくめるだけなのでしょうか。」と。核抑止論とは、核兵器をある程度保有することで戦争を抑止する力があるという考えのことだ。

私たちは心のどこかで戦争は、教科書に載っているものだと思っているのではないのだろうか。今、ロシアがウクライナに軍事侵攻している。私たちは、ロシアがウクライナに軍事侵攻をすることが分かっていたのだろうか。戦争は、突然起こる。だから、湯崎知事が言ったように核抑止論から脱却すべきなのではないのだろうか。核兵器は、人類を滅ぼす兵器なのだ。

その核兵器の被害にあった被爆者の方たちは今、平均年齢が85歳を超えていて被爆者の方から直接話を聞くことが難しくなっている。つまり、8月6日の悲劇についてよく知らない人たちが多いのだ。広島の男子大学生は、8月6日のことについてこのように答えた。「広島で育っているので、この日は特別な気持ちになりますが、大学で出会った他の県の友達は広島に原爆が落とされた日という意識があまりなく、悲しく感じてしまいます。風化させないのが一番だと思います。」と。

日本は、世界で唯一の戦争被爆国だ。私たちは、被爆者の方から直接話を聞くことができた。その聞いた話を他の人に伝えることで8月6日の悲劇を風化させない取り組みにつながるのではないのだろうか。その取り組みをするのが、私たちの使命なのではないのだろうか。

私の平和宣言　人と繋がる

今回の広島派遣で、平和の大切さを学ぶことができました。私たちが何もしなければ平和はいつまでも訪れないでしょう。私たちが、行動することで平和への道のりの第一歩を踏み出すことができます。平和のためにできることは、私たちの身近にもあると思います。

また、自分を変えることも平和へとつながると思います。誰かをあざ笑うことや、悪口を言わないなど、自分を変えることが重要です。

さらに、平和な世界にするためには、世界中の人たちが繋がらなくてはいけない。差別や偏見などを無くし、繋がることで世界が平和になると思います。一人が行動すれば、誰かが行動するかもしれない。その輪が広がれば、世界は平和になるでしょう。

A班

筑波大学附属中学校　2年

荒井 ひとみ（あらい）

1 学習テーマ　戦争とヒロシマ～今、私たちにできること～

私たちの班のサブタイトルである「今、私たちにできること」について、私は実際に広島に行き、ヒロシマ青少年平和の集い、平和記念式典に参加し、本川小学校平和資料館、呉市海事歴史科学館、とうろう流し、平和記念資料館、平和記念公園慰霊碑を見学させていただいたことで、自分たちが何をやるべきかが分かった気がした。

それは「原爆について学んだ私たちが被爆者の方から聞かせていただいたこと、それを色々な人たちに伝えていく」ということだ。広島で実際にあった被爆のことを知らない人、被爆自体は知っているが本当は何があったか詳しく知らない人、そういう人たちに被爆者の方から聞かせていただいた事実を伝えていかなければならないと思った。

2 感じたこと、学んだこと　日常にある平和への一歩

本川小学校平和資料館に寄せられた千羽鶴

私は、この学習に参加する前「『平和』という概念が世界中で一致する」とは思っていなかった。そして、今回の学習を通して自分の中で全世界共通にあるものを見つけた。それは「幸せ」と思える気持ちだ。

私の中で平和とは「世界の誰もが協力し、武力ではなく会話で物事が解決できる。そして幸せと思える。」というものになっている。現在の、ロシアからのウクライナ侵攻が続く状況や世界で起こる紛争を考えると、全世界が協力するのはとても難しい。このような世の中では、全世界が核兵器を捨て、廃絶する努力をしなければ、平和は訪れない。

しかし、「幸せ」と思えることは誰でもできるのだと気づいた。

「幸せ」とは人に言われないと気が付きにくい。被爆者の方が「家に帰って『ただいま』と言ったら『おかえり』という言葉が返ってくる。これはとても幸せだ。」とおっしゃっていた。そのお話を聞いた後、家族が生きてくれている。このことだけで、とても幸せだと思った。

今、目の前にある「当たり前」と思っていることも、幸せと感じられる。この「幸せ」と思える気持ちをたくさん増やしていったら平和に一歩、近づけるのではないか。

私の平和宣言　真事を伝え同じ事を二度と起こさせない

今、被爆者の方がだんだん少なくなっていて、広島や長崎の原爆の事実を語れる人が少なくなってきています。だからこそ被爆者の方から聞いた事実を私たちが言葉で伝えていかなければいけません。

また、現在の全世界の核兵器保持数は約1万3千発もあります。多くの人が核兵器廃絶を願っているのにも関わらず、この数です。そこで私たちが広島や長崎で起こった原爆投下について、また、そこで何万人もの方々の命が犠牲になったかについて、この派遣事業を通し、見て、聴いて、教えていただいた内容を、周りの人たちにしっかりと伝えていきたい。そして、同じことを二度と繰り返してはいけないと思います。

Group B

たくさんの人々に78年前の悲劇を伝え
今、どれほど幸せなのかを感じてもらうために
私たちは78年前と今の架け橋となるのです

学習テーマ

架け橋～ヒロシマを持ち帰り、伝える～

戦争があったことを、昔のこととして終わらせないことが
大事だと思いました。
私たちは「架け橋」となって、平和の一歩を踏み出していくために、
今ある幸せに感謝しつつ、多くの人々に
この学習で学んだことや被爆者の方の想いや願いを
伝え続けていきます。

B班

杉森中学校　2年

小山（こやま） 延蔵（のぶと）

1 学習テーマ　架け橋～ヒロシマを持ち帰り、伝える～

実際に広島へ行ってみて、戦争体験者から戦争の悲惨さや強い精神を学ぶことができました。また、平和記念資料館では、当時の写真や実物から実際に戦争を目の当たりに感じました。

この学習テーマから広島に行って戦争について分かったことを東京に持ち帰って、平和に対する思いを架け橋として伝えていきたいです。

2 感じたこと、学んだこと　平和に対する自分の想い

10分の1の戦艦大和

僕は、この事業を通して広島市や呉市からここでしか知れない戦争の悲惨さを学ぶことができました。

広島市では、原爆ドームを中心に今でも当時のままの建物が残っています。原爆ドームは、世界遺産に認定されており、この維持管理をするために毎日、広島市の人々がゴミ一つ残らず掃除をしています。この広島の人々の努力から原爆ドームは戦争の悲惨さを残していくための欠かせない建物であると行動から学ぶことができます。また、この戦争に対する学びも実際に広島へ行かないと分からないことだとも感じました。

また、平和記念資料館でも当時のままの写真や実物が飾ってあり、核爆弾の脅威を改めて学ぶことができました。この資料館から戦争の恐ろしさを知り、平和に対する思いを感じてほしいと思いました。

呉市では、大和ミュージアムに行き、戦艦大和について学びました。実際に10分の１の大きさの戦艦大和を見てみて、事前学習で調べた時の大和と全く違いとても迫力がありました。また大和は、技術の結晶と言われるほど高度な技術を駆使していました。そして、戦艦大和で当時、戦いに使われた技術が今でも生かされています。例えば目標点からの距離を測る測距儀は現在では、カメラに使われたりしています。このことから、広島では感じられなかった戦争で生かされた当時の高い技術を知ることができました。

また、呉市には他と比べて戦艦が多く空襲でもかなり狙われた地域だったので戦争の被害が多くありました。これは、広島の原爆ドームと同じく戦艦大和の歴史は残していくべきだと戦争を学んで思いました。このようにこの事業を通して戦争の悲惨さを胸が痛くなるぐらい学びました。これをきちんと家族や友達に繋げていきたいです。

私の平和宣言

変わりない暮らし

戦争体験者が伝えていたことの中に戦争中は、まともな食物が食べられず生活は貧しくなってしまった。そして、戦争で笑顔が消えてしまう状況でした。そこから、自分が思う平和とは、衣食住のできる変わりない生活や笑顔の溢れる暮らしができることだと思ったからです。

B班

東原中学校　2年

松尾 風花（まつお ふうか）

1 学習テーマ　架け橋～ヒロシマを持ち帰り、伝える～

私がこのテーマに向けて学習し、いくつか伝えたいことがあります。その中でも特に伝えたいことは、今の私たちがどれだけ幸せなのか、についてです。

私たちの今の生活は、毎日おいしいご飯が食べられて、たくさん勉強することができます。ですが、被爆者の方のお話では、当時「毎日ご飯を食べることだけで精一杯。おしゃれもできないですし、こんな生活が嫌だ、戦争は嫌だ、などと声に出したら拷問でした」と語っていました。また、広島市のたくさんの建物、資料、慰霊碑や記念碑、そして植物などが78年前の８月６日におきた悲劇を語っていました。

私たちは実際に広島へ行き、たくさんのことを感じ、学び、今ここにいます。たくさんの人々に、78年前の悲劇を伝え、また、今どれほど幸せなのかを感じてもらうために、私たちは78年前と今の架け橋となるのです。

2 感じたこと、学んだこと　実際に行ったからこそ、感じられるものがある

被爆者との交流

私がこの事業に参加しようと思ったきっかけは、小学３年生の時に「はだしのゲン」という漫画を読んだことから始まります。当時の暮らしが細かく描いてある漫画です。一番最初に戦争について知ることができるものでした。私は何度もはだしのゲンを読み、ここに描いてある場所に実際に行き、漫画に描かれている暮らしを詳しく知りたいと思い、この事業に参加しました。これほど直接戦争について触れる機会は、滅多にないでしょう。

平和記念資料館では、施設を出るまで、声を出すことができませんでした。目の前の悲劇に息が詰まってしまったからです。綺麗だった川は死体で埋まり、立派な建物は全て丸焦げ。漫画やインターネットに出てくる写真を見ている時とは感覚が全く違いました。本川小学校平和資料館（はだしのゲンの主人公、ゲンが通った学校のモデルになった爆心地に一番近い小学校）には、黒い雨の跡や、黒い煙の跡がありました。たくさんの千羽鶴も置いてあり、広島市民の方たちの思いも伝わりました。

また、被爆者の方のお話も、実際の声で聞くから伝わるものもたくさんありました。

核兵器、これが存在するだけでいくつもの尊い命が奪われます。

戦争、これがあるだけでたくさんの幸せが奪われます。

これらを無くすためには何をすればよいのか、課題はまだまだたくさんあるのです。

私の平和宣言　笑顔を、永遠に

この事業を通して、誰もが永遠に人間らしく生き、人間らしく死ぬためにも、戦争や核のない生活を送り、この世界の全員が笑顔で暮らせることを願い、この宣言にしました。

B班

井草中学校　3年

井澤 日和子（いざわ ひわこ）

1 学習テーマ　架け橋～ヒロシマを持ち帰り、伝える～

「今ある平和を水のように当たり前だと思わないでほしい。」

被爆者である久保田朋子さんが私たちに切実にそう訴えました。戦後78年が経った今、戦争によって心や体に傷を負った人々が今日も平和を願っているにもかかわらず、世界では今もなお戦争や約1万３千発もの核兵器が存在しています。被爆者の平均年齢は今年で85歳となり、戦争や平和について触れる機会が少なくなっている中で、私たちにできることは今と昔を繋ぐこと。被爆者の方の想いを受け継ぎ、発信してこの先の未来へ残していくことがとても重要だと思いました。

2 感じたこと、学んだこと　平和の意味

爆心地付近の本川小学校平和資料館に供えられている平和を願う折り鶴

この平和学習を通して、本や映像では知ることのできない戦争や核の恐ろしさや、平和の大切さを学ぶことができました。広島での３日間は現地の人たちとの交流の機会に恵まれ、年齢を超えてたくさんの人たちが常に平和を願いながら活動している姿を見ることができました。そして、平和は一人の力で作れるものではなく、一人一人の小さな取り組みの積み重ねによって作られるということを改めて感じました。

ヒロシマ青少年平和の集いで「平和とは何か」という問いについてグループで考えたときに、共通していた意見がありました。それは、「全ての人々が笑顔で何気ない日常を送れること」です。何気ない日常は私たちにとっては当たり前かもしれませんが、広島や長崎に突然落とされた、たった一発の原子爆弾がそんな日常を奪ったということを考えれば、当たり前だと思ってはいけないし、今ある日常に感謝しなくてはいけないと思いました。そして、二度と戦争が起きないよう、被爆された方の想いを世界中の人が自分事として捉え、戦争がなくならない現状に向き合い、この先の平和な未来をどのように作り、守り抜いていくのかを考え、話し合っていくことで本当の平和に辿り着けると思いました。

未来は私たちにかかっているということを忘れず、今と昔、戦争によってつらい思いをした人々の願いや想いを自分自身が架け橋となってこの先に繋げ、伝えていきたいです。

私の平和宣言　平和の輪を広げる

今回の平和学習を通して、一人一人の力は小さくても、同じ想いを持って協力し合えば平和は実現できると学びました。

そのためにはまず、誰もが広島や長崎で78年前に起きたことを知ることが大切だと思います。被爆者の方の高齢化により、お話を生の声で聴く機会が少なくなっているため、今回聴いたお話や想いを今度は自分がたくさんの人に共有していくとともに、より多くの人と平和な未来を作れるよう、積極的に自分ができることを考え行動していきたいと思います。

B班

富士見丘中学校　2年

藤田（ふじた） 智貴（ともき）

1 学習テーマ　架け橋〜ヒロシマを持ち帰り、伝える〜

原爆が投下されてから78年が経ちました。学校などで原爆のことを深く学ぶことは難しく、原爆がいつ投下され、どのくらいの被害が出たか知っている人は年々減ってきています。知らずにいるとまた同じ過ちをくり返してしまうと思います。年々減ってきている原因は伝える人が減ってきているからだと思います。だから、僕たちが広島で学んだことを伝えることが大切だと思います。知った人がまた別の人に伝えて行くことで段々平和の理解が広まると思います。広島で学んだことを伝えていくことが平和への理解を深めるための第一歩だと学習テーマから学びました。

2 感じたこと、学んだこと　戦争の恐ろしさを学んで

この事業全体を通じて感じたことは、戦争の恐ろしさを学ぶことでいろいろなことを知ることができるということです。戦争をしていた時は、ご飯は満足に食べられず、したいことができないことが当たり前でした。このことを知り、毎日を当たり前のように過ごしていたが毎日の穏やかな日常の大切さに気づけました。

広島に行き気づいたことは、思ったよりも外国の方が多かったことです。このことから原爆の問題は日本だけの問題でないということに気づきました。また外国の方もメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で真実を知りにきていることに驚きました。世界の中でも日本がすすんで平和を学ばなければいけないなと思いました。

また、核兵器がなくならない理由についても学びました。僕はまわりの国が持っている不安からではないかと思いました。僕一人で、核兵器を無くすことはできないので、みんなでなくすためにも伝えることが大切だと思いました。被爆者の方はおっしゃっていました。「みんなで協力していかないといけない」と。戦争の恐ろしさを伝えることなら僕にもできます。

今、若い人は選挙に行かなくなってきています。そして今、ロシアによる軍事侵攻も他人事ではありません。間違った判断をしてしまうと巻き込まれるかもしれないのです。しかし、戦争の恐ろしさを知ったら、国の平和を守ってくれる人に任せたいなと思うはずです。人に伝えるのにはまず自分が知らなければいけません。そのため、平和に生きていられる今に感謝しなければならないなと思いました。

平和を願って

私の平和宣言　日常の些細な幸せに感謝

今回の学習で普通の生活が送れることは、当たり前ではないことが分かりました。平和に暮らせるのが当たり前と思わないように、またこのことを忘れないように、日常の些細な幸せに感謝したいです。

B班

西宮中学校　2年

権藤（ごんどう） みさと

1 学習テーマ　架け橋〜ヒロシマを持ち帰り、伝える〜

私は、この学習テーマを通して、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを今まで以上に実感しました。抽象的に言っていても戦争の恐ろしさは伝わらないものだと被爆者の話を聞いたりしていて感じました。この班の学習テーマは「架け橋〜ヒロシマを持ち帰り、伝える〜」、つまり、戦争時のヒロシマと今を「伝える」ことを通してつないでいこうということです。この学習テーマを基に学んだ戦争の恐ろしさ、平和の大切さを具体的に伝えていき、戦争時と今をつなぐ架け橋になっていきたいと思います。

2 感じたこと、学んだこと　当たり前のありがたさ

この事業に参加して、自分が今まで戦争について知っていたことは、ほんのわずかなことだったのだと感じました。

平和記念資料館には、目がどこにあるか分からないくらいのやけどを負った人の写真や原爆によってボロボロになってしまった服、当時暮らしていた人々が残した証言などがありました。このような資料を見る時、自分事としてとらえて考えると、うまく言葉では言い表せないけれど、とても苦しくなったし、大変だったのだなと実感しました。このようなことからも、今まで以上に戦争が恐ろしいことを知り、平和の大切さが分かりました。

原爆によりボロボロになった服

被爆者の多くの方は、私たちにこう言っていました。「戦争の恐ろしさ、平和の大切さ、これを伝えていくために私は生かされているのだ」と。被爆者の方たちはこういう想いで今まで生きてきて活動しているのだから、そんな被爆者の想いに目を背けてはいけないと強く感じました。そのため、被爆者の想いに目を背けず、これからも戦争の恐ろしさを学び、平和の大切さについて考え続けたいなと思いました。また、被爆者の方が減っている今、こういう貴重な話を聞くことができたという経験を無駄にせず、この事業で学んだことをみんなに伝えていきたいと思います。

そして、戦争当時はできなかった「勉強」ができること、非常に不足していた「食べ物」が毎日しっかり食べられることなど、毎日当たり前のようで当たり前ではない日常をおくれることに感謝しながらこれから生活していきたいと思いました。

私の平和宣言　多様性の尊重

私は平和とは、みんなが自由な生活をおくれることだと思います。そのためには、差別をなくすことが求められると考えました。なぜなら、差別があると、差別されている人が不自由な生活になってしまうからです。差別はなぜ起こるのか、それは、一人一人の多様性を尊重できていないからだと思います。だから私は、平和のために、一人一人の多様性を尊重していきたいと思い、この平和宣言にしました。

B班

麹町学園女子中学校　3年

春原（すのはら） 雪乃（ゆきの）

1 学習テーマ　架け橋～ヒロシマを持ち帰り、伝える～

78年前、広島に落とされた一発の原子爆弾により多くの尊い命が失われました。

「原爆は多くの人々の夢を奪いました」

12歳の時に被爆した方はそう述べます。お金が無く、食べ物もギリギリな状態で生き延びたが、後遺症で今も苦しんでいる被爆者の思いを伝えるために、人々は平和について話すことが大切だと思います。

なぜ、今も原爆ドームが残されているのか？それは、「戦争の恐ろしさを知ってほしいから」です。もし、戦争で親を亡くしたら？もし、目の前でしかも自分で親を火葬しなければいけなかったら？あなたはどうしますか？私は見てもいられないと思います。

被爆者の高齢化が進む中、広島の平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」という言葉の通り、もう二度とあのようなことがないように、戦争や平和について考え、周りに広める必要があると思います。

2 感じたこと、学んだこと　戦争の恐ろしさと平和の大切さ

私は、今回の平和学習で様々なことを学びましたが、特に2つのことが大切だと思いました。

1つ目は、戦争や核兵器の恐ろしさです。当時広島市には35万人の人々が暮らしていました。しかし、1発の原爆により１４万人もの人々が亡くなりました。また、その後も放射能の後遺症により、今も大変な思いをしている被爆者の方がいます。今はロシアによるウクライナ侵攻が続いており、プーチン大統領は核兵器を使ってウクライナを脅すなど、してはならない行為を繰り返しており、深刻な状況となっています。戦争や核兵器は人の命や希望を消す恐ろしいものです。そのため今後、戦争がなくなり、核兵器のない平和な世界が良いと思いました。

2つ目は平和の大切さです。私が思う平和とは、戦争などがない世界だと思います。しかし今、海外では紛争が起きており、「平和」とは言いがたい状態となっています。一方、日本では親と一緒に過ごせたり、友達と話せたり、平和に過ごしています。ですから今の平和な一瞬を大切にしたいです。

私は3日間で様々なことを学ぶことができました。今回学んだことを生かし、今後は戦争について多くの人に広めていきたいと思いました。

原爆投下の時間に止まった時計

私の平和宣言　いま私に出来る事を考え広める

被爆者の方が、説明の最後に

「将来はあなた達にかかっています。」

とおっしゃっていました。被爆者の方の思いを広めるためにも今、自分にできることは何かを考え、それを周りに広める必要があると思いました。

Group C

原爆が投下された翌日、「復興」と書かれた旗を作り町の人に声をかけている方がいたことに感動しました

学習テーマ

平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

お互いのことを知って、相手にも伝わる言葉で伝えること

「ヒロシマ」を世界へ伝えること

国籍、年齢に関係なく真剣に考えること

過去を忘れず、未来へ進むこと

いろいろな方法で発信していくこと

学んだことを形に残すこと

それが「平和への一歩」になる。

C班

神明中学校　2年

宮﨑 凜（みやざき りん）

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

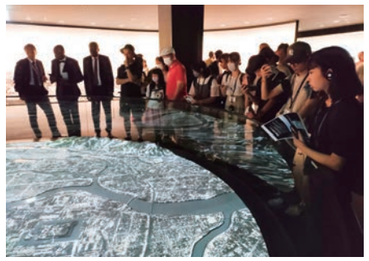
78年前の終戦が告げられた日。「戦争が終わった、日本が負けた、という悔しさや悲しみの前に、今までの我慢は何だったのだろうか、という気持ちになった。」被爆者の方は、私たちにこう語ってくれました。

さて、私たちC班の学習テーマは「平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～」です。このテーマの「一歩」には、私たちが広島へ行って、一人一人が「平和」について考え、それを伝えていくことで、様々な人がそれぞれ「平和」について考えてもらう一歩になればという思いが込められています。

今年、被爆者の方々の平均年齢は85歳を上回りました。被爆者の方のお話を聞けなくなる日も必ず来ます。そのため、私たちが様々な人に情報を発信して、「平和」について考える一歩になりたいと思います。

2 感じたこと、学んだこと　ノー・モア・ヒロシマ

私は派遣の中で、１日目のヒロシマ青少年平和の集いの際の被爆者の方のお話、そして平和記念資料館がとても印象に残っています。


外国の方や小さな子供もいました

まず1日目のヒロシマ青少年平和の集いの被爆者の方のお話では、「鬼畜米兵といって、アメリカは悪だと教えられてきた。しかし、アメリカの人でも、日本のために尽くしてくれる人、助けてくれる人がたくさんいた。だから国なんて関係ない。」という言葉が強く印象に残っています。

また、平和記念資料館には、外国人の方も多く訪れていました。国籍も関係なく、ただ目の前の資料に目を向けていました。強い熱線や光によって人の跡が残った石段、炭化したお米の入った弁当箱。被爆者の方が書いた絵や、実際の写真。言葉にはならない強い衝撃を受けました。私たちの住んでいる日本は平和ですが、世界では紛争が絶え間なく続き、未だロシアによるウクライナ侵攻が続いています。もう絶対にヒロシマの悲劇は起こしてはいけないのだということを、私たち自身が伝えていくべきだと思いました。

私の平和宣言　聴いて 考えて 伝えて 聴く

私はこの３日間で、被爆者の方のお話を聞いたり、被爆当時の貴重な資料を見たり、様々な人の考えに触れたりと、とても貴重な経験ができました。そして、自分の意見を伝えることもできました。だから私は、他人の話を心から聴いて、自分の頭で考えて、それを様々な人に伝え、それに対しての意見を聴く…。それを繰り返して、もっとたくさんの考えに触れ、たくさんの人に平和について伝えていきたいと思いました。

自分が実際に行って、何を感じ、考えたのか。それを伝えることで、誰かが「平和」に対して考える「一歩」になれたら嬉しいです。

C班

宮前中学校　3年

笠原 凜南（かさはら りな）

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

私は今まで、原爆があったということは知っていたが、「平和」とは何か、よく分からなかった。しかし、今回の事業で、当時原爆が投下された後の貴重な資料を実際に見て、原爆によって変わってしまった街の様子、人々の生活などを詳しく知り、原爆は想像以上に何もかもを悲惨な状況に変えてしまう恐ろしさがあるのだと感じた。

また、それだけではなく、放射線などの後遺障害で今も苦しんでいる人がたくさんいるということも知り、長く影響を与え続けるものだということも知った。

広島での様々な経験を通して、私にとって、私たちが「当たり前」と思って生活しているこの一瞬一瞬が幸せなのであり、「平和」なのであると実感した。「平和」について自分の考えを深めることができたのは、平和への「一歩」になったと思う。この地球上に生きるすべての人々が「幸せ」と思える瞬間が一つでも多く増えるように、まずは、原爆をまだあまり知らない人に原爆について知ってもらい、誰もが平和に生きる社会を創っていくためにはどうすればいいか、一人一人に考えてもらう、そのことこそが平和への一歩なのだと考える。

2 感じたこと、学んだこと　「平和」について真剣に考える

私はこの事業で、原爆というものの強さや恐ろしさ、当時の人々の叶えられなかった日常の平和に対する願いというものを実感した。

本川小学校平和資料館での展示物

本川小学校平和資料館、平和記念資料館などで原爆が投下された当時の資料を見ることを通して、原爆は、たった一発で人々のそれまでの当たり前の生活を悲惨なものに変えてしまうものなのだと感じた。また、平和記念資料館の見学では、当時の悲惨な状況の中でも必死に生きようとする人々の思いを感じた。当時は現在のように食料や衣服を調達することもままならなかった。そんな中でも必死に生きよう、頑張ろうという思いが胸の奥にあり、その思いを抱きながら亡くなったということを知ったときは、言葉にならないくらいの悲しみを感じた。

これらのことを通して、私は、今、私たちが「普通」と思っている生活こそが幸せなのであり、「平和」なのであると感じた。二度とこのような悲劇を繰り返さぬよう、これからは私たちが、広島であの日、起こっていたことを伝え、原爆の現実味を感じてもらい、「平和」に対してじっくりと考える機会を持ってもらうことが大切なのだと思った。

私の平和宣言　対話力を磨く！

これからの人生の中で自分の考えとは全く異なる考えを持った人もいるかもしれません。だからこそ、自分の思いを考えたままに全て言うのではなく、一度客観的に考えてみて、相手に対して分かりやすい言葉を上手に文章にして伝えていく力を身につけていきたいです。

C班

高井戸中学校　2年

國安（くにやす） 千晃（ちあき）

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

この学習テーマにしたことで、被爆者の方々のお話や資料館の展示を通して戦争の悲惨さや平和の尊さ、より多くの人に伝えることの大切さについて学ぶことができました。さらに、ヒロシマ青少年平和の集いでは、平和とはどんな世界のことなのか、平和な世界をつくっていくために私たちにできることは何なのか、様々な角度から考えることができました。

私は、平和について、戦争について考えることも平和への一歩だと考えます。「微力だけど、無力じゃない」という言葉があるように、世界中の人が平和について考えるだけでも、平和な世界への一歩を踏み出しているのではないかと思います。だからこそ、起きてしまった戦争から目を背けず、自分の考えをしっかり持ち、様々な立場の人と交流しながら、より多くの人に発信していきたいです。

2 感じたこと、学んだこと　自分で見て、聞いて、考えたこと

こども代表による「平和への誓い」（引用元：TBS NEWS）

今回の広島派遣を通して、普段の生活では学べないけど、これから生きる上で知っておくべきことを自分の目で実際に見て、聞いて、考えることができたと思います。

その中でも、平和記念式典で小学６年生の子が平和宣言をしていたことに心を動かされました。私たち派遣生より小さい子供たちが思いを込めて話しているのを見て、住んでいる場所は違っても、一人の人間としてより多くの人に伝えていかなければいけない、学んだことをそのままにしてはいけないと思いました。特に、被爆者の方々の平均年齢がだんだん高くなっていき、当時の状況を伝えてくれる人が減っているのが現状です。教科書にも数行しか載っていないけれど、未来を担う私たちの手で1人でも多くの人に伝えていけば、同じような悲惨な出来事を繰り返さない、核兵器のない世界になるのではないかと思いました。

また、平和記念式典の直後、声をかけてくださった方の話が印象に残っています。その方は、「私は広島で被爆したけど、助かったの。家族は失ったけど、お墓にお骨を入れることもできなかった。どれが家族のお骨か分からないから。」とおっしゃっていました。私はその話に衝撃を受けました。言葉で表すことができないくらいの悲しさと、原爆への怒りで胸が張り裂けそうでした。さらに、その方は「一生懸命生きて、当たり前を大切にね。」と伝えてくれました。今、こうして平和学習ができるのも当たり前ではないので、その言葉通り、生きていきたいと強く思います。

私の平和宣言　思いを形に

平和記念公園で案内して下さった方が、「形にしないとすぐに忘れちゃうのよ。」とおっしゃっていました。原爆ドームも、後世に伝えようという思いから残されているそうです。だからこそ、この広島派遣で学んだことも考えたことも形にして多くの人に伝えていきたいな、と思ったのでこの平和宣言にしました。

C班

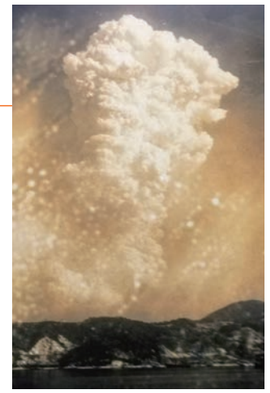
向陽中学校　3年

荒井（あらい） 理央（りお）

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

私はこの学習テーマから「実際に自分で見て、聞いて、感じる」ことが大切だと学びました。私は原爆の悲惨さ・残酷さを教わっても、いまいちピンときていませんでした。しかし、今回実際に広島に足を運び「平和」について学ぶ3日間を通して、私の「平和」への意識が変わりました。原爆ドームや平和記念資料館にいって自分の目で色々なものを見て写真だけでは感じられないオーラのようなものを感じました。そういうものは実際に近くで見たり話を聞いたりしないと分からないものだと思います。なので私は「実際に自分で見て、聞いて、感じる」ことが大切だと学びました。

2 感じたこと、学んだこと　形に残し、継承していく


原爆の脅威、残酷さ

今では、世界遺産にもなっている原爆ドームですが、終戦後は、被爆の悲惨な思い出につながることから、取り壊しを望む声もあったそうです。もし自分がその時、居合せていたら、みなさんは取り壊しに賛成派でしたか？それとも反対派でしたか？私は反対派だったと思います。

私は広島での３日間で平和への意識が大きく変わりました。私は決して賛成派の意見を否定しているのではなく、私の気持ちの変化で、反対派になったことを言いたいのです。その理由は「形に残すこと」が大切だと思ったからです。

実際に原爆ドームを見るのと教科書の写真で見る原爆ドームは迫力や鮮明さがだいぶ違いました。近くまで行って、細かいところまで観察すると今にも崩れ落ちそうな鉄鋼、飛び出した鉄筋、一部だけ抜けたレンガなど、東京にこもったままだったら絶対に見られなかった光景を見ることができました。教科書での原爆ドームとは別物のようでした。かといって強調されすぎてもいない感じが私には恐怖を与えたり、原爆の威力の壮大さがひしひしと伝わり、とても印象強く心に残っています。

私は、実際に感じるということがより多くの人の心に残るための手段だと思います。なので私は、広島に足を運ぼうとたくさんの人に思ってもらえるように、感想ではなく今回の経験で感じたこと学んだことを発信していきたいです。私は原爆ドームを通して「形に残し、継承していく」ことが大切だと学びました。

私の平和宣言　幸せを広める

１日目に被爆者笠岡貞江さんに言われた言葉があります。それが「あなたたちは幸せ」です。私たちは原爆を見たこともないですし、日本で戦争を体験したこともありません。笠岡さんは「その環境が恵まれている。決して今の生活が当たり前だと思わないでください。」とおっしゃっていました。

私たちは戦争という悲しい過去のあったうえでこうして今幸せに生きているのです。そしてこの環境が当たり前だと思っている人を減らすためにも、私は学校全体に共有したりSNSでの発信など自分にできる方法で「幸せ」を広めていきたいと思いました。

C班

高円寺学園　8年

河合（かわい） 啓志（けいし）

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

原爆投下後の広島市内の様子

グループのテーマを通して学んだことは、「核兵器は人類破滅の脅威になる」ということです。核兵器が投下されたあと、爆風で建物や人々は吹き飛び、熱線による大やけどやケガ、放射線による細胞の破壊、この恐ろしい兵器をなくさない限り平和は二度と訪れないと感じました。

また、個人のテーマとして掲げた「復興」については人々の想いが深くかかわっていることを知りました。原爆が投下された翌日、“復興”と書かれた旗を作り、町の人に声をかけている方がいたということに感動しました。たった一発の原子爆弾のせいで大事な人、大事なものを失い、絶望の淵へと突き落とされた人々が、復興という前を向いて進み始めるまでには、いろいろな葛藤があったと思います。その時の広島の人たちの頑張りのおかげで、今の広島があると感じました。

2 感じたこと、学んだこと　自分たちが平和への未来を背負っている

広島で学んだ３日間を通して、「あなたたちが平和への未来を背負っている」という言葉が最も心に残りました。これは１日目のヒロシマ青少年平和の集いで被爆者の笠岡貞江さんが私たちに伝えてくれた言葉です。

平和な未来を創るために、今の自分に何が足りていないのかを考えるようになりました。そして、平和記念式典への参列や平和記念資料館への訪問を通して、世界には核兵器の脅威について理解できていない人たちがまだまだいるのではないかと思うようになりました。なぜなら、広島の悲劇を正しく理解できているのであれば、核兵器を持つことに恐怖を感じるはずです。しかし現状は9か国もの国が核兵器を保有し、ロシアやアメリカは5,000発以上の核兵器を持っています。

原爆死没者慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」というメッセージ。苦しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和の実現を祈念する「ヒロシマの心」を日本に、そして世界に伝えていきたいです。

そして、絶対に三度目の核兵器を使用せず、当時の人々の苦しみを継承していく必要があると思いました。

私の平和宣言　平和のバトンを世界中の人々につなぐ

私は78年前の8月6日に広島で何があったのかを一人でも多くの人たちに伝えることで、聞いた人たちが「平和のためにできることはないか」と行動を起こすきっかけにしてほしいと思っています。広島の歴史を知り「そうだったんだ」と思うだけではなく、それを常に自分事として捉えることで、平和についてより一層深く考えることができると今回の広島で学ぶことができました。

核兵器や戦争をひとつでもなくしていくためには、世界中の人々が広島で何があったのかを正しく理解することが必要不可欠だと考え、この宣言にしました。

C班

Musashi International School Tokyo　Year9

篠原（しのはら） はじめ

1 学習テーマ　平和への一歩～被爆地ヒロシマで考える～

人影が残ったままの石段

この学習テーマでは「被爆地で考える」がキーワードだと思いました。事前学習会では、原爆が落とされた背景などについての知識を身に着けました。それも大事なことなのです。実際に被爆地に足を運び、被爆者の声を聞き、被爆した建物を見て、肌で感じないと分からないことがたくさんあると思いました。

例えば、原爆の人体への影響などは、知識として身に着けても、実際に体感しないと分かりえない苦痛があります。そしてそれは被爆者でないと伝えることはできません。平和記念資料館でも、人影がそのまま残っている石段を見ましたが、実際に見るのと写真で見るのでは大違いでした。これらのことは、実際に被爆地に行かないと聞いたり、見たりすることは難しいです。

このように、僕は「被爆地で考える」というのはとても重要で、平和について学ぶにあたって避けては通れない道だと感じました。

2 感じたこと、学んだこと　核兵器は必要か

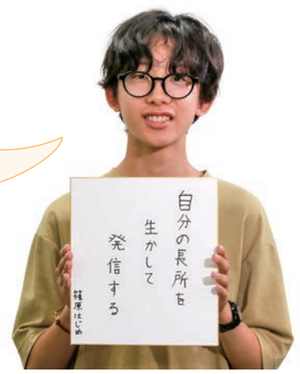
この事業を通して、僕は、本当に原爆は必要なのか、ということについて考えました。

現在ウクライナとロシアが戦争をしており、ロシアは核兵器の使用をほのめかす発言を繰り返しています。この状況下で核兵器を手放すのは、非常に難しいと思います。なぜなら、多くの先進国は核兵器に依存しており、そのせいで他の国も核兵器を手放せなくなり、新たに保持せざるを得なくなるのが現状です。つまり、一国が核兵器を手放せば、その国が核兵器を使用される危機的状況に陥ることを意味します。なので、今はある意味核兵器が争いを防いでいると思いました。これにより、今核兵器が必要無いとは言えないと思います。なので、今は核兵器廃絶を実現するためにも、よりいっそう国同士が話し合うことが大事だと痛感しました。

今回の事業でも、班員とも話し合わないとお互いに分からないことはたくさんありましたが、話すことによって、相手のことが分かったり、仲良くなれたりすることができました。なので、話し合いをすれば国同士も争いをせずに済むと思いました。

私の平和宣言　自分の長所を生かして発信する

僕がこの宣言をした理由は、全員長所があり短所もあり、それを埋めあうために、自分の長所を生かすのが大事だと思ったからです。そして、平和について知ってもらうためには、自分が学ぶだけでなく、それを周りに発信していかないといけません。なので、僕の平和宣言は「自分の長所を生かして発信する」にしました。



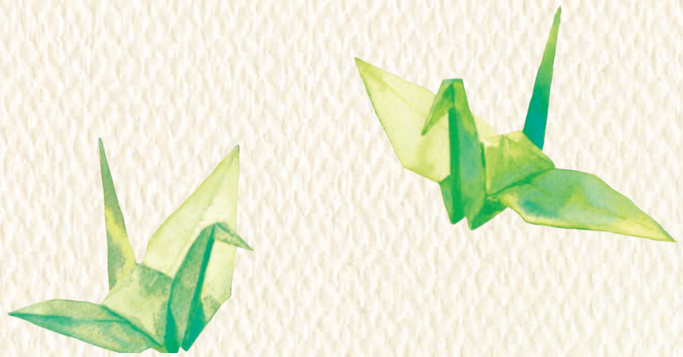
Group D

どんなに小さなことでも、まず行動し「平和な世界」に向けて一歩を踏み出していきたい

学習テーマ

過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

二度と同じような過ちを繰り返さないためには
広島の人・長崎の人だけでなく、私たちが自分事として捉え
今現在どのような問題があるのかをより多くの人に伝えるため、
他とは違った代わり映えするアイデアを考えるなど
新たな視点が必要であり、それを受け入れることも重要であると考えました。



D班

中瀬中学校　2年

上平（かみひら） 侑芽（ゆめ）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

平和記念資料館で見た写真や遺品、被爆者の方のお話から私が思い描いていた以上の過酷さ厳しさ、恐さを感じました。一言で被爆と言っても火傷などの目に見える大怪我だけではなく家族や友人を亡くした人々、被爆後生き残った人々に浴びせられた心無い言葉や行動、それらすべてをまとめて深い傷を負った人々がいるということに改めて心が痛くなりました。

また、怪我を負ってもなお警察官や車掌さん、その他多くの人が働かなければいけなかったということを知ると、どんなに必死で人々が生きていったのかがより伝わってきました。78年経ち被爆者の平均年齢も上がっている中、伝えていくのは私たちだと、二度と繰り返させないと深く思いました。

2 感じたこと、学んだこと　今考える「幸せ」と「繋いでいく」

川を流れる皆の思い

被爆者の方のお話で多く聞いた「幸せ」という言葉。この広島平和学習を通して今までの私の幸せに対する考えが大きく変わりました。今私たちが勉強できていること、家族と同じ場所で過ごしていること、自分で好きな量のご飯が食べられることなどの今の「日常」が幸せであるということを平和学習を通じて感じました。

朝の８時15分、普通に生活していたそんな時に突然落とされた原爆により、一瞬で言葉じゃ言い表せないような光景が広がったことは想像を絶します。溶けて中身が真っ黒になっているお弁当箱やボロボロになった服を見ると、ただいまと言えて、お帰りが返ってくることの喜びを感じたし、どんなに今、日常をおくれていることが幸せなのかと考えることができ、すごく貴重な経験になりました。

そして、この過去の過ちをこれからにどう「繋いでいく」か。今回の事業で多く学習した核は、今でもなお世界で約12,500発も保有されており、核の脅威はまだなくなっていないという現状をまずは自分の周りの人に伝えて知ってもらいたいです。また、一刻も早くこの世界から核が廃絶されるように、この学習を機に他人事ではなくニュースを見て自分の考えを持とうと思います。

私の平和宣言　毎日を大切に

この広島平和学習を通し、幸せや平和について多く考えてみて毎日を普通に過ごせるわけではないことをより感じたから、何となくで毎日を過ごすんじゃなくて小さな目標をたてたり色々なことに挑戦していって、１日1日を有意義に過ごし、多くの人とたくさん関わっていこうと強く思ったのでこれを宣言しました。

D班

井荻中学校　2年

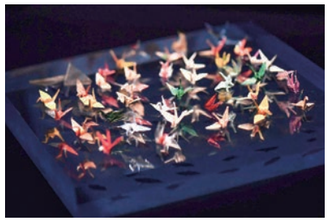
上野 里緒（うえの りお）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

私は、派遣事業の中で多くの現地の方のお話しを聞くことができた。現地に行き、そこで78年前、本当に原爆が落ちたのかと思うと言葉にならない感情が湧き出してきた。そこで、私は、この感情をもっと多くの人に知ってもらいたい、もっと原爆のことについて知って欲しいと感じた。

2 感じたこと、学んだこと　人々の笑顔

私は、平和学習をするまで核兵器のことをあまり知らず、戦争のことをあまり深く知ろうとはしなかった。しかし、今回ヒロシマに行き、核兵器の深刻さ、戦争の実態について深く学ぶことができた。



被爆者であり平和の子の像のモデルとなった
佐々木貞子さんが折った折り鶴の一部

平和記念資料館や被爆者の方々の話を伺うと、不思議なことに気づいた。それは、原爆投下前の子どもがみんな写真なのに笑顔ではなく真顔であることだ。「笑顔」と聞いてみなさんはどのようなことを想像するだろうか？私は、日常生活のことを想像する。しかし、戦時中、子ども達は、親や学校の先生からも「笑顔でいてはいけません」と言われていたそうだ。だが、戦争が終わって天皇陛下からの知らせを聞いた子ども達は、写真を撮るとき「笑って」と先生や親に言われてないのにみんな笑っていたそうだ。なぜだろうか？それは、嬉しかったからだ。

私は今回ヒロシマに行き、多くの被爆者の方のお話を聞いていったらいろいろな単語がでてきた。「集団疎開」、「家族」、「核兵器」、「平和」、などいろいろと知っている単語ばかり出てきて驚いた。

私たちの中で、笑顔に暮らせるのが当たり前と思っている人はいないだろうか？私は決してその人を悪く言いたいのではない。だが、この生活に、笑顔でいられることにもっとありがたみを持って欲しい。今回、私もこの事業に参加するまでは、この生活にさえ不満がなかったわけではない。だが今回ヒロシマに行き今の生活のありがたみ、笑顔でいられる日々の尊さも学んだ。

私の平和宣言　笑顔を当たり前にする

この生活と、笑顔で過ごせることが幸せだということを今回の派遣事業で学びました。

そこで私は、多くの人と関わり、関わった人を笑顔にするということをやっていきたいと思います。また、それを当たり前にし、できる限り悲しんだり、怒ったりなど辛い思いをしている人を少しでも減らしたいと思いました。

さらに、人とのかかわりの中で私は、２つのことを大切にします。１つ目は、話を聞き共感すること、２つ目はたくさん人と話していくことです。

D班

高井戸中学校　3年

谷尾 心瑚（たにお ここ）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

このテーマから一番学んだことは、過去の過ちを許すことでこれからの未来につながっていくということです。過去の過ちを恨んだり憎むのではなく、許すことで争いのない世界につながっていくのだと思いました。相手を許さないとそこで終わってしまうけれど、相手を許すことでその先の「平和」につながっていくのだと感じました。平和を壊すことは簡単だけど、平和を作っていくことは難しい。だから、平和を壊した人を恨むのではなく、簡単に壊れてしまった平和を、どうしたら壊れずに続けていけるのかを考えていくことがとても大切なのだと感じました。

2 感じたこと、学んだこと　伝えていくことの大切さ

私は、1日目のヒロシマ青少年平和の集いでの笠岡さんのお話がとても印象的でした。笠岡さんは両親を原爆で亡くしました。「父親は一度帰ってきたものの唇がひっくり返り、体も顔も真っ黒だった。父親が亡くなるまでの2日間は父親と離れるように暮らしていた。」とおっしゃっていました。自分がもしその立場に置かれていたらどうしていたのか、を考えるだけで怖くなってきます。笠岡さんは様々な場所で自分の体験を語り継いでいます。笠岡さんがどんな気持ちでお話をしてくださったのかは自分には想像ができません。

被爆者「笠岡貞江さん」のお話

私は現地の広島に行くまでは、本当に原爆が落とされたのかなと、今の広島を考えると想像できませんでした。しかし、資料館を見たりガイドの方のお話を聞いたりすると本当に原爆が落とされたのだと少し怖くなってきました。被爆者の方の年齢が上がってきている中で人に伝えていくことの大切さに改めて気づかされました。伝えなければ伝わらないし、伝わらないとなくなってしまうことを次の世代である私たちがどのように伝えていくかがとても大切だと思いました。伝えていくことが未来に向けて生きていくために、そして「平和」という未来を実現するために、とても大切だと思いました。

私の平和宣言　「平和」の大切さを伝える

私は今回のことを通して、伝えていくことの大切さに気づきました。今の時代、「平和」について人々が深く考える機会が少なくなってきているかもしれません。そんなときこそ、自分の口から人々に伝えることがとても大切なのだと思います。

今回の学習を通して学んだことを誰かに伝えることはとても大切なことなのだと考えます。伝えていかないといつかは消えてしまう、過去の過ちと原爆を生き抜いた人々の強さをいろいろな人に知ってほしい。そんな思いからこの平和宣言にしました。

D班

向陽中学校　2年

佐多 遼介（さた りょうすけ）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

1945年8月6日に世界で唯一の戦争被爆国になった日本。一発の原子爆弾が広島の地に落とされました。この過ちを経て、現在世界がどうなっているのかについて考えました。

一つの国が原子爆弾で被爆し、ひどい状況になったにも関わらず、まだ約12,520発残っている核兵器。その核兵器がなぜ存在するのかについて、ヒロシマ青少年平和の集いで考える機会がありました。杉並区以外の人とも話し合い「核を持っていると自分の国を守り、幸せをもたらすことができる」や「核廃絶を目指す人の意見が弱い」などの意見が出ました。

この問題は、各国がお互いを尊重して戦争は絶対にしないという共通認識を持たなければ解決しない問題だと考えました。その一方で、このテーマにおいて、各国がその共通認識を持つことの難しさも感じました。

2 感じたこと、学んだこと　被爆者の思いを知って

今回の学習では、ヒロシマ青少年平和の集い、大和ミュージアム、平和記念公園で、それぞれのガイドさんの話を聞いて、平和でいることの大切さや原爆が落とされた時の状況や被爆前の状況、その後の復興など様々なことを学びました。

慰霊碑から見える原爆ドーム

ヒロシマ青少年平和の集いでは、被爆体験証言で被爆者の笠岡貞江さんの話を聞きました。笠岡さんの話ではもともと原爆が落とされる予定だった場所について聞いたり、被爆の際に思っていたことや終戦を受けての思いなど普段の授業では分からないたくさんの詳しい情報を聞いたりすることができました。その中でも僕が一番印象に残ったことは、笠岡さんが僕たちに伝えてくれた「思い」＝「戦争はたくさんのものを失う」「核兵器がなくなってほしい」「皆が平和だと思える未来の世界は君たちにかかっている」という言葉でした。

被爆者が高齢になっていくにつれて、当時の広島について伝える人が減ってきています。その中で今を生きる私達が当時のことや、「平和」という複雑で難しい問題を受け継いでいくことが大切だと感じました。

私の平和宣言　平和の大切さや被爆者の思いをつなげていく

この事業で3日間貴重な体験をしました。特に平和記念式典に参列して、広島の松井市長のお言葉にあったように、被爆者の「こんな思いはほかの誰にもさせてはならない」という思いを、全世界の人々や為政者に知ってもらい、後世に伝えることに意味があると思いました。そのため、僕は今後この広島での平和学習の経験を活かして、まずは身近な人や友達などに平和の大切さを伝えていきたいです。

D班

松ノ木中学校　3年

渡辺 新太（わたなべ あらた）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

私は、以前から平和への願いの象徴である折り鶴が捧げられたままになってないかと疑問に思っていました。その背景には７８年前の悲惨な歴史があります。二度と同じような過ちを繰り返さないためには、広島の人・長崎の人だけでなく私たちが自分事として捉え、今現在どのような問題があるのかをより多くの人に伝えるため、私たちができることは他とは違った代り映えするアイデアを考えるなど、新たな視点が必要であり、それを受け入れることも重要であると考えました。

2 感じたこと、学んだこと　言葉の力の大きさ

今回の広島平和学習中学生派遣事業を通じて、私は改めて平和の大切さと、それを多くの人に広め平和を維持していくことの大変さを学びました。そう考えるきっかけとなる出来事が２日目に参列した平和記念式典でした。それは式典中に何度も登場した「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」というガンディーの言葉です。私はこの言葉に感動し、私に平和の大切さを広めることの大切さを促すきっかけを作りました。このような「言葉」は中学生である私をはじめ多くの人の心の中に刻まれ、平和についての自分の認識を再確認させるきっかけとなったはずです。

一方では、その意識を行動に移せていない人が多いのも現状です。その様な人にも、実際に被爆地に赴いた私たちの経験を伝え、自らが先頭に立ち、小さな平和に気づいてもらえるよう、相手を思いやり、愛の力で、優しく非暴力に発信をしていきたいと思います。

広島市長による平和宣言
（引用元：広島市役所ホームページ）

私の平和宣言　一度踏み止まり冷静によく考える

私の曽祖父は、広島に原爆が落ちた当時呉にいました。そして曽祖母は、広島市内にて被爆をしました。それ以来当時の政府に対する不信感などから招待があっても決して平和記念式典には参列しなかったそうです。このように政治が人々に与える影響はとても大きいものだと思います。

そして今のウクライナ情勢のようにどの政党、どの人が政権を握るかにより戦争は今にでも起こり得ると考えます。そのためどの人がどのような政策を掲げているのかをしっかりと調べることや友達と討論をするなど政治をよく知り、平和という目標に向け行動していきます。

D班

和田中学校　2年

小柳 和音（こやなぎ かずね）

1 学習テーマ　過去の過ちを超えて～争いのない世界を目指す～

広島に落ちた、たった一発の原爆は大きな被害をもたらし、その影響は現在まで残り続けています。ヒロシマの被害は、目に見える被害だけでなく、目に見えない被爆者の心に残る被害もあります。そのことをヒロシマで実感できました。

過去に起こったことはもう変えられません。この過ちを過去に起こったことにして終わらせるのではなく、これからの未来に同じ過ちをくりかえさないよう、私たちが学び、行動していきたいと思いました。争いのない世界を目指していくことはとても難しいことだと思います。もちろん、すぐにできることではありません。ですが、少しずつでも行動し積み上げていけば、平和な世界に近づいていけると感じました。そのためにも、自ら起こせる行動を起こして過去を超え、平和な未来へつなげていきたいです。

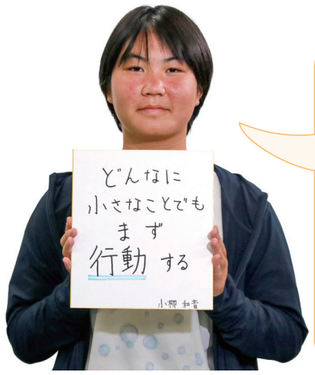
2 感じたこと、学んだこと　平和な世界を目指して

広島では、原爆の悲惨さや被爆者の思い、原爆・核兵器の怖さを学ぶことができました。資料館や原爆ドーム、ヒロシマ青少年平和の集いなど広島でしか学ぶことのできないことを学ぶことができたと思います。

広島の公園内を巡った時、ガイドさんが「この地の足元にはたくさんのお骨が眠っています。」とおっしゃっていて、広島の地すべてが、原爆のことを感じ、学び、考えることができる場であると思いました。そう考えると、今まで歩いてきた広島の場にもたくさんの命が眠って、それと同時にたくさんの想いが眠っているのだと思います。

広島に行き多くの体験をしたことで私は、みんな「平和」を目指していることは同じで立場や環境は違っても同じところを目指す仲間だと思えました。だからこそ、小さなことでも行動し、少しでも「平和な世界」「争いのない世界」に向け、歩んでいきたいと思いました。

平和な未来へつなぐ「原爆ドーム」



私の平和宣言　どんなに小さなことでも まず行動する

広島に行き、広島でしか学べない、感じることのできないことを学ぶことができました。たくさんの人が平和な世界を目指し、自分たちにできることはないかと考え、行動していました。多くの人がうまくいくかどうか分からない、伝わらないかもしれないと思っても、思い切って始めてみたり、あきらめず行動し続けたりすることで、平和に向け歩んでいます。

私も、どんなに小さなことでもまず行動していきたいと思いました。そして「平和な世界」に向けて、一歩を踏み出していきたいです。

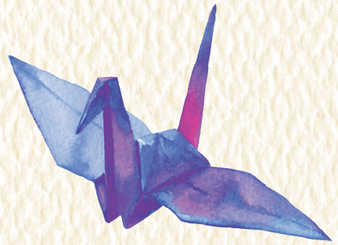
Group E

広島で暮らす人々の想いを伝えるために 私たちはここへ来たのだ

学習テーマ

繋げよう、平和への想い

一人一人の行動によって、世界は変えることができるのです。
そうして世界が戦争、核兵器廃絶に向かっていくためには、
戦争経験者がだんだんといなくなってきている今こそ、
若い世代による戦争を知り広める活動が大切なのです。



E班

杉森中学校　2年

笹岡（ささおか） 夏希（なつき）

1 学習テーマ　繋げよう、平和への想い

私は、広島派遣学習を通して、被爆者の方のお話を聴いてきました。広島に行くまでは、お話を聴いても「本当に起きたのか」と実感が湧かず、現実を受け止めることができませんでした。今考えると、恐怖で目を背けていたのだと思います。目を背けてしまうと、未来に伝えることもできず、そう遠くはない将来で過ちを繰り返してしまいます。戦争、核兵器の恐怖心を忘れず、未来に繋げる必要があると思いました。また、一人一人が戦争と向き合い、戦争がどのようなものなのかを知る必要があると思います。

2 感じたこと、学んだこと　平和な世界を実現するためには

私は、実際に広島に行き、戦争、核兵器について学んできました。しかし、私が知らないことはたくさんあり、本川小学校、原爆ドーム、資料館で実際に被爆したものを自分の目で見て、「たった１つの核兵器でこんな甚大な被害になる」と考えたら、頭が真っ白になりました。それも、まだ戦争の一部であること。まだ知らないことはたくさんあり、この先知ることができないことも多くあると思います。その中でどのように世界に核兵器の恐ろしさを広げることができるのかが課題です。

自転車の骨組みが曲がっている

未だこの世界には12,520発の核兵器があり、すぐに使うことができる核兵器も多く存在しています。また、年が経つにつれ、現役核弾頭が増えている現状があります。いつ、どこで使われてもおかしくない核兵器。罪のない命を落とさないためには、全世界の人たちが戦争と向き合うことだと思います。現在もロシアのウクライナ侵攻でたくさんの人の命がなくなり、一日一日緊張感を持ち、脅かされながら生きている現状。私が「その立場だったら」と思うと頭、心が空っぽになり、言葉で表すことができない恐怖心にかられると思います。

友達、家族が生きているかも分からない、生きた心地のしない毎日。生きていくことが辛くなる、そんな日や記憶を作らないために「戦争の悲惨さ」を、「核の威力」を、未来に伝えなければいけないと固く思いました。

私の平和宣言　何気ない日常を当たり前に

嬉しいことや楽しいこと、日々成長することは、戦争がないからこそできることです。楽しい日々は時が過ぎるのが早く感じます。しかし、その中では、戦争や貧困で苦しみながら生きている人がいます。戦争は、人々に甚大な被害を及ぼし、楽しい日々を壊す行為です。

平和を願うだけでは世界は平和にならないことが現状です。すぐに世界を平和にすることはできなくても行動することはできます。募金や自分の身近なところから「当たり前」を増やしていくことはできると思います。将来、戦争が起きず、核兵器が使われない、何気ない日常が当たり前で、笑顔が増える世界になることが大切です。

E班

松溪中学校　2年

岡（おか） 侑実（ゆうみ）

1 学習テーマ　繋げよう、平和への想い

私たちは、広島で平和の尊さや戦争、原爆の脅威を知りました。ただ、そのようなことを「学ぶ」だけでなく、「伝える」ことが大切だと思います。広島に１発の原爆が落ち、一瞬にして多くの尊い生命が奪われ、生き残った人には計り知れない程の絶望と悲しみを与えました。

原爆投下から７８年が経過し、人々の記憶からは薄れてしまっていると思います。だから、私たちが知ったこと、考えたことを多くの人に伝えていくことが大切だと思います。

2 感じたこと、学んだこと　伝えていく

平和の祈りが込められた灯篭

私は広島で、ヒロシマ青少年平和の集いや平和記念式典に参加し、本川小学校平和資料館に行き、戦争の悲惨さ、原爆の脅威、平和の尊さを学びました。なかでも記憶に残っているのは、とうろう流しです。初日に灯篭を作り、２日目の夜にとうろう流しを見に行きました。その時、川には数えきれないほど多くの灯篭がありました。そして、その一つ一つに平和への願いが込められていました。そこで感じたのは当たり前ですが、とても多くの人が平和を大事にし、それを伝えていきたいのだと思っているということです。私は広島平和学習を通じて、なぜ平和が大切なのか、なぜ今の世界は平和ではないのかということを考えました。

ロシアによるウクライナ侵攻が進み、核兵器の使用が危ぶまれる今、世界は平和なのでしょうか。私はそうは思いません。

広島の人たちは平和になるために伝えること、話し合うことが大切だと教えてくれました。私は今回広島で知ったこと、考えたことを周りの人に伝えていこうと思います。

1945年８月６日午前８時15分、広島に１発の原爆が落ちました。原爆を受けた人は爆風により飛ばされ、熱線により皮膚は溶け、放射線により体内の細胞は壊れました。被爆者というだけで差別されてしまうということもあり、被爆者は心身共に傷つきました。そのため原爆への理解と被爆者への正しい理解が大切だと私は思います。

もし私の家族が兵器で亡くなってしまうなんて考えるだけでつらいです。しかし、世界の人々は今そのような危機にさらされています。現在世界には約１万2500発もの核兵器があります。もちろん私だけの力では核兵器を無くすことはできません。まず、この報告書を読んでいただいた皆さんには平和について考えてほしいです。そして、このことを皆さんの身近な人たちと話し合ってほしいです。そういった輪が広がることで、少しでもこの世界を皆の力で変えていけると、私は思います。

私の平和宣言　ここから変えていく

戦争が終わり日本は平和になりました。ただし、世界を見るとどうでしょうか。まだまだ良い方向に変えていけると思います。

「ここから変えていく」。これが私の平和宣言です。

E班

井荻中学校　2年

若林 杏（わかばやし あん）

1 学習テーマ　繋げよう、平和への想い

私たちは今回、平和についてたくさんのことを学んできました。いつの時代の人だって日常があったこと。その日常がたった一瞬で破壊されてしまったこと。どこにいる人たちだって同じように平和を願っていること。私たちは戦争を経験していないし、もうじき経験者もいなくなってしまうのだけれど、この活動を通して後世にまでも平和への想いを繋いでいかなければならないと改めて思いました。

2 感じたこと、学んだこと　私たちと昔、今、未来

私は今まで戦争についてきちんと調べたことはありませんでした。戦争が恐ろしく、やってはいけないことだということは分かっていたのですが、すこし怖かったからです。ですが今回こうやって事実から逃げずに知るべきだと思ったので参加しました。そのおかげで学んだことがあります。

１つ目は、学習テーマにもありますが私たちが後世に伝えることが大切だということです。私はこの派遣事業に参加するまでは戦争や核兵器、その歴史についてよく知らず、ただ漠然とダメなものというイメージしかありませんでした。ですが今回資料を見たり、お話を伺っていくにつれ、絶対に二度と起こってはいけないことなのだと強く実感することができました。

戦争についてよく知らないと昔に起こったことや人々の願いを無視し、また同じことを繰り返してしまいます。そんなことが起こらないために、今、起きたことを知っている私たちが広めていかなくてはいけないと思いました。

２つ目は、私たちは今を大切にしないといけないということです。戦争があったころの人々は食べるものも無く自由なことをすることも難しかったのですが、それにくらべて今の私たちはお腹いっぱいに食べることができていますし、好きなことをすることもできるのです。１日目のヒロシマ青少年平和の集いで被爆体験講話をしてくださった笠岡貞江さんが「あなたたちが学べるのはとても羨ましいことです。私が子供だった頃なんて学びたくても学べませんでしたから。」とおっしゃっていました。この言葉を聞いて私は、はっとしました。私の周りには勉強したくないと言っている人も多く、私もそう思っていたからです。ですが私は、今後はもっともっと一生懸命に勉強したいと思いました。

本川小学校にある原爆慰霊碑

私の平和宣言　今を大切にして生きる

広島に行き、今こうして生きていられることは当たり前ではないということを学んだため、昔の人たちのためにも今を大切にし、更なる平和に向かって日々一生懸命に生きていきたいと思ったため、この宣言にしました。

E班

高井戸中学校　3年

月原 凜久（つきはら りく）

1 学習テーマ　繋げよう、平和への想い

今、世界の戦争や平和に関する関心は薄まっていると感じるときがあります。ロシアによるウクライナ侵攻から約1年半が経ちましたが、最近はメディアでも取り扱われなくなっているような気がします。

私は今回の広島平和学習で、「平和」とは「たとえ訪れたとしても、過去の歴史とともに未来に継承し続けなければならないもの」だと強く感じました。また、広島で暮らす人々の想いを伝えるために、私たちはここへ来たのだとも確信しました。

平和記念資料館で見た原爆による被害は、この世のものとは思えないほどの惨劇でした。

「今を生きる私達の肩に平和がかかっている」被爆者である笠岡さんの言葉をよく覚えています。

過ちを二度と繰り返さぬようヒロシマの過去を通し、国境を越えて「平和」と「戦争」、人々の「想い」を伝えていくのは、自分たちにもできる仕事ではないかと考えています。

2 感じたこと、学んだこと　平和を受け継ぐこと

一瞬で破壊された広島の街

原爆は、一瞬で広島の街並み、人々の命、そしてそれぞれの幸せを奪っていった。

それまでの私の原爆に対するイメージは、それだけのものだったのかもしれません。平和記念資料館で投下された瞬間を再現したものを見たとき、絶句してしまいました。無情なほど速く、すべてが失われていく様子。あの時、なんの前触れもなく突然訪れた悲劇は、もう人間ではどうしようもないような絶望だったのだと思い知らされました。

核兵器は、地球上から完全になくさなくてはならない。そう強く感じたとき、私たちにできることは何か考えると、やはり「伝える」ことではないかと思いました。

原子爆弾を人や街に使ったらどうなるか…それは、唯一の戦争被爆国である日本で生まれた私たちが、かつてすべてを見てきた人（被爆した人）から学び、伝えていくことができます。

また、平和記念公園内の原爆ドームをはじめ、原爆死没者慰霊碑や原爆の子の像、平和の鐘も印象的でした。それらは、「絶対に忘れないようにしたい」という広島の人々の想いや願いが込められており、感銘を受けました。世界中の人達に知ってほしいと願っています。

地球にはまだ、1万発以上の核兵器が存在しています。つまり、今、世界は危ない状況でもあるのです。

戦争の悲惨さ、平和の大切さ。たとえ、核兵器がこの世界からなくなり「平和の灯」を消すことができる日が来たとしても、忘れられることのないよう継承していきたいと、この平和学習で強く思いました。

私の平和宣言　相手の立場に立って想像する！

原爆による、かつての悲惨な様子を見たとき、もし自分だったら…と考えると、とても恐ろしく悲しいことだと感じました。何かをする前に、自分にされたらどう思うだろう？と思いを巡らせることが、平和を築くことに繋がると思います。

E班

西宮中学校　3年

髙橋（たかはし） 悠平（ゆうへい）

1 学習テーマ　繋げよう、平和への想い

私たち Eグループの学習テーマは「繋げよう、平和への想い」です。現在はインターネットの普及により原爆による危険性は簡単に知ることができます。しかし、知ることができても核兵器を保持し続ける国があるのはなぜでしょうか。それは核抑止力があるからです。それじゃあ、もう核兵器をなくすことはできないのでしょうか。平和ではいられないのでしょうか。そのような想いをつないでいき、インターネットでも分からない解決策をつくりたいと思いこのようなテーマにしました。

また、班の意見をまとめたところ平和に関することによってテーマを決めるか、核兵器に関することでテーマを決めるかで悩んでいましたが最終的には平和の中に核兵器をなくすことが含まれているのではないかということで平和の想いをつないでいくことが大切であることをテーマにしました。

2 感じたこと、学んだこと　答えは自分でつくろう

私が広島に行って思ったことは、とにかく核兵器の悲惨さを嫌というほど知れるということです。核兵器が使われたときに起きることや人々の苦しみ、亡骸の山、溶けてねじ曲がったガラス瓶などのショッキングなものを一気に大量に知ることができます。この大量な情報の中でも特に自分に強く残ったものを一つ一つ胸にとどめ平和の大切さ、どうすれば平和な世界になるのか、を考え続けていきたいと思います。

核兵器による被害

私の平和宣言　知識の高め合い

私は平和であるということのひとつに、図書館が多くあることだと思います。なぜなら図書館があるということは本を無料で読めるように整備する公共機関が整っており、表現の自由があり、人々に本を楽しめる余裕があるということだからです。逆にこれらのことができない場合は不安定なのではないでしょうか。争いが起きる原因はとても複雑です。その争いをなくすということは核兵器廃絶の途中で実現するのではないかと思いました。核兵器が現在まで存在する理由として核抑止力があることが挙げられます。核抑止力をなくすには核で威嚇し合う原因である争いをなくす必要があります。

このことから、平和であることと核兵器廃絶には深い関係があるように思います。争いをなくすためにはどうすればいいか、私は争いの原因を見極め、そのことを他の人々に伝わるように説明できる「仲介人」を育てる必要があると思います。争い合っている人々だけで和解することは難しいです。「仲介人」を育て、「仲介人」になるということが平和に近づける一歩になると思います。そうなるためには知識の高め合いが重要だと思いました。

私の平和宣言

杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、
人類共通の願いである。
いま、私たちの手にある
平和ゆえの幸せを永遠に希求し、
次の世代に伝えよう。
ここに杉並区は、
核兵器のなくなることを願い、
平和都市を宣言する。

昭和63年3月30日

杉並区

広島平和学習中学生派遣事業は「杉並区次世代育成基金」を活用しています。
子どもたちが将来の夢に向かって健やかに成長できるよう基金の応援をお願いします。

令和5年度
広島平和学習中学生派遣事業報告書
令和5(2023)年12月発行
編集・発行
杉並区 区民生活部管理課 平和事業担当
〒166-8570　杉並区阿佐谷南一丁目15番1号
電話(03)3312-2111(代表)
印刷：ash design

登録印刷物番号
05-0074

本書は杉並区のホームページでご覧になれます。

杉並区